

「加工食品流通のリードタイム延長：基本的な考え方と取組の方向性（要約）」

製・配・販連携協議会 ロジスティクス最適化WG（2020年6月）

1. 検討の目的

加工食品の納品リードタイム延長は既に検討・取組が始まっているが、今後に向けて、製・配・販各層の課題認識と対応のあり方を議論し、リードタイム延長に関する基本的な考え方と今後の取組の方向性をとりまとめることとした。

2. 基本的な考え方

加工食品のリードタイム延長については、

- ①持続可能な物流の構築に向けた取組と位置づけ、
- ②リードタイム延長がもたらす「効果」と「課題」を理解したうえで、
- ③物流業務の全体調整、効率化・省力化の施策を併せて導入しつつ、
- ④製・配・販が連携・協力しサプライチェーン全体として検討・推進することが望ましい。

3. 実現に向けた取組の方向性

サプライチェーン最適化の観点から、製・配・販が連携しリードタイム延長と併せて次のような取組を検討・推進することが重要である。

- ①**特売・新商品のリードタイム調整（製・配・販）**
 - 特売・新商品は、小売業の発注に基づいて卸売業がメーカー発注できるように調整する。
- ②**商品回転に応じたリードタイム調整（配・販）**
 - 商品回転など商品特性に応じてリードタイムの長短を調整する。
- ③**定番商品の発注締め時間の調整（製・配・販）**
 - 小売・卸間の発注締め時間の前倒し、卸・メーカー間の後倒しについて検討・調整する。
- ④**配送時間の分散化、納品時間枠の調整（製・配・販）**
 - 配送時間の分散化や納品時間枠の調整についても、あわせて検討する。
- ⑤**パレタイズ納品、予約受付システム、ASNによる検品レスの活用拡大（製・配）**
 - 卸納品時の待機・作業時間について効率化・短縮する施策を実施することが望ましい。

4. 今後の課題

①取組方法の継続的な検討

様々な流通事情を考慮に入れつつ、リードタイム延長の取組方法を継続的に検討する。

②先行事例・成功事例の共有

リードタイム延長についての先行事例・成功事例の知見を共有・活用する。